

⑥子どもの周りを見直そう！

「かずくんは、帰りの用意をするときにいつも途中で止まってしまいます。トイレに行った帰りに棚にあったミニカーで遊び始める、お友達のカバンについているピカチュウのキーホルダーをじっと見入ってしまう、などなかなか用意が終わりません。用意が終わるのは、いつもクラスで一番最後です・・・」



多動や注意が散りやすいタイプの子どもにとって、周りの環境はとても大切です。落ちついた環境にいと、お話を上手に聞くことができたり、遊びを長く続けることができます。ほんの少しの工夫が子どもの助けとなります。大切なことは、事前に子どもの周りを見直して、環境を整えてあげることです。

「ドアの近くの席だったら飛び出す可能性があるかも・・・」「集中しやすいのはどこかな？」
「帰りの用意のときは、棚のミニカーは隠しておこうかな？」

家庭や保育所などで、お話を聞いたり、工作などの課題を行う際の配慮すべき点を以下に挙げます。参考にしてください。

家庭では？【例】

- 部屋や机の上を片づける
- テレビ、ラジオなどは消す
- 弟、妹は別の部屋で遊ばせる
- 注意が逸れてしまうような絵柄の筆箱、下敷きなどは使わない

保育所などでは？【例】

- 部屋を片づける（危ないもの、使わないものは片づけておく）
- おもちゃ、文房具などは、棚にシールや絵を貼るなどして整理整頓する
- 前でお話するときは、できるだけ先生の近くに座らせる（目が合いやすいように）
- 多動の子どもはドア側に座らせない
- 注意が散りやすい子どもは窓際に座らせない（外ばかり見てしまうため）
- 音に敏感な子どもがいるので、あまりに騒がしい状況をつくらない



ルール⑥：子どもの周りを見直して、環境を整えよう！

